石川県立美術館だより

BIJUTSUKAN DAYORI

第364号　平成26年2月1日発行

特別陳列

生誕100年

截金 人間国宝・西出大三展 －平安の美を求めて－

西出大三　木彫截金彩色「飾馬」（個人蔵）

■ 前田家の天神信仰 －天神画像と文房具－

■ 刀剣の美

■ ムナカタとオモテ

■ 春を待つこころ

- 2月の企画展示室
- 2月前半の展覧会
- 友の会会員募集
- 2月の行事予定
- 所蔵品紹介

棟方志功　「大首の柵」

表立雲　「未だ定まらず」

特別陳列

生誕100年 截金（きりかね） 人間国宝

西出大三 ―平安の美を求めて―

2月15日（土）～3月21日㈮・祝　会期中無休

平安時代から鎌倉時代の仏像や仏画に用いられた、繊細で精緻な金箔装飾「截金（きりかね）」。この技法で重要無形文化財の認定を受けた三名の作家の内、截金のみならず、素材の選定から器物の木彫、彩色などすべての工程を自ら行ったのは、西出大三氏ただ一人です。

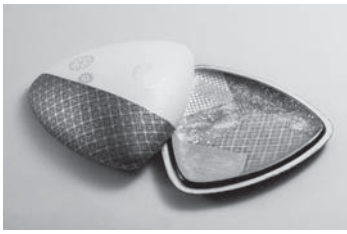
華やかな截金が施された、端正な器物や動物をかたどった容器など、西出氏の木彫截金作品には妥協のない完成された美があり、愛らしい動物の姿であっても、触れることをためらう厳しさを秘めています。

西出氏は大正二年に石川県江沼郡橋立（現加賀市）で生まれ、帝室技芸員であった高村光雲に私淑して昭和七年に東京美術学校に進学、木彫と古美術の修復技術を学びました。仏教美術の修復に関わる中で、京都の限られた技術者にのみ伝えられていた、截金に心を惹かれて研究を始めました。研究はめざましい成果を上げ、同三十年には截金が「国の記録作成等の措置を講ずべき無形文化財」の指定を受けています。

やがて自ら彫った木製の器物等に、顔料による彩色と截金を施した作品の制作を始めたことは、自然の流れであったでしょう。同三十二年に第四回日本伝統工芸展に初入選、翌三十三年には第五回同展の技術賞を受賞し、同六十年には重要無形文化財「截金」保持者の認定を受けました。

本展は、平成二十五年に生誕一〇〇年を迎えた西出氏の回顧展であると共に、氏が半生をかけて研究した截金技術を紹介するものです。会期中に截金ガラス作家山本茜氏をゲスト講師に迎えて、子ども向け鑑賞講座を行います。一般の方も見学できますので、ぜひお越し下さい（詳細は7ページの二月の行事予定をご覧下さい）。

木彫截金彩色「瑞鳥」
昭和32年 第4回日本伝統工芸展
（個人蔵）



截金彩色飾合子「富士」
昭和33年 第5回日本伝統工芸展 技術賞
（金沢市立安江金箔工芸館蔵）

第5展示室

学芸員の眼

高村光雲の仏教彫刻に魅せられていた西出氏は当初、彫刻家を志していました。今回展示される初期の木彫作品の中でも、とりわけ印象的な作品は、昭和二十一年第一回日展に出品された「あま」でしょう。仏像の衣のような美しいドレープの腰布をまとった海女は、能楽「海人（あま）」で知られる藤原房前（ふじわらのふさざき）の母で、竜神から面向不背（めんこうふはい）の珠を奪い返したときの姿をうつした迫力ある像です。対して姉妹作とも言える、似た顔立ちの「女立像」は、背筋を伸ばし一歩前へ進み出た静的な姿です。房前の母が息子の未来のために、自らの命を擲（なげう）つ決意をしたときは、このように静かな様子だったのかもしれません。一人の女性を表した二つの女性像をご覧ください。

木彫「あま」　昭和21年

前田育徳会尊経閣文庫分館

前田家の天神信仰

―天神画像と文房具―

2月15日（土）～3月22日（土）　会期中無休

二月は受験シーズンです。私事ですが、かれこれ二十数年前。大学受験へ向かうバスの中から、京都・北野天満宮の前を通り過ぎた時、そっと心の中で合格を祈願したことが、思い出されます。北野天満宮に祀られるのは、ご存じ「学問の神様」菅原道真。「天神さま」「天神さん」として親しまれています。そして、江戸時代。加賀藩の歴代藩主も、天神さまに祈りを重ねました。合格祈願？…否。歴代藩主には、どのような思いがあったのでしょうか。

今から約一六〇年前の嘉永五年（一八五二）の二月二十五日、十三代藩主斉泰（なりやす）の代参として家臣の前田監物が北野天満宮を訪れます。道真の命日に太刀を奉納するためです。この年は道真没後九五〇年にあたりますが、前田家では八〇〇年忌の元禄十五年（一七〇二）より、五〇年毎に歴代藩主による太刀の奉納が行われています。遡ること三代藩主利常の頃から、家祖は道真と公言するようになり、北野天満宮へ太刀などを奉納し続けていたのです。

加えて斉泰は、道真が主人公の能『雷電』を、宝生友于（ともゆき）とともに『来殿』として改作しました。『雷電』は怨霊となった道真が、激しい雷となって登場するのに対し、『来殿』では神となり、早舞を舞うというめでたい内容です。能を愛した斉泰らしい試みで、家祖であり、「芸能の神」としての道真を慕う気持ちがうかがえます。

（次号につづく）

第2展示室

刀剣の美

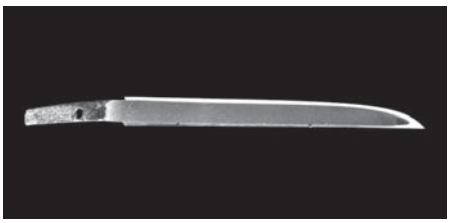
2月15日（土）～3月22日（土）　会期中無休

万葉集に「出（い）で立ちのくはしき山ぞ」とあるように、「くはし（細し）」は美をあらわす言葉でした。それは山を形容していることから、繊細さというよりは、凛とした美しさに用いられたと考えられます。広く日本刀と呼ばれている刀剣の美も、このような歴史的な美意識に立脚しているのではないでしょうか。刀剣は武器として制作されたものです。したがって、用を極限まで追求したところに美が現れます。ですから「刀剣の美」は装飾を加えてゆく美ではなく、そうした思いをそぎ落としたところに立ちのぼる、凛とした美しさということができます。

今回は館蔵品、寄託品の中から、正宗を始めとする鎌倉から室町時代の比較的よく知られた刀匠の作品と、室町時代から江戸時代まで加賀の地で作られた、いわゆる加州刀を約二十口展示して、日本刀の歴史における加州刀の特質の一端をご紹介します。

この中には、戦後連合国軍に武装解除の一環として接収された刀剣類のうち、東京都北区赤羽に集められたために、「赤羽刀」と呼ばれていたものが含まれています。

「赤羽刀」はその後一部が日本に返却され、所有者不明の数千点が長年東京国立博物館に保管されていました。やがて平成十一年に、それぞれの刀剣にゆかりの深い各地の博物館施設に譲与されました。今回展示するのは、譲与された後に当館において研磨したものです。



「短刀 銘国光」新藤五国光 鎌倉14世紀

第4展示室

ムナカタとオモテ

2月15日（土）～3月21日（金・祝） 会期中無休

板画と呼ばれる木版画で世界にその足跡を残した棟方志功。玄土社を主催し、古典書の臨模と研究をする一方、前衛書を書き、第一線でその表現を追求し続けている表立雲氏。

この二人が親交を結んでいたことは、北陸にお住まいの方ならご存じかもしれません。その出会いは昭和二十一年春、当時砺波市に住んでいた表氏が、福光町に疎開していた棟方志功を訪ねたことがきっかけでした。以後二人は互いの家を行き来し交流を持つようになります。表氏が昭和二十三年に結成した玄土社の研究会にも棟方は顔を出し、自らも絵を描いたり、書を書いたり、首をかしげ、喜んだり、しょげたり、大騒ぎであったといいます。また棟方は「書の径の会」を結成し、大澤雅休や表氏らと書の世界を開拓しようとしました。

この親交により、表氏は棟方より芸術論、思想の面で影響を受けることとなり、また、棟方にとっても福光での生活や出会いが作風を発展させる契機となりました。「芸術において人やものとの出会いは決定的である」とかつて表氏が記したように、この二人の出会いもそれぞれの世界を飛躍させるものであったに違いありません。

本特集では約三十点の作品から、二人の歩みと力強い造形のエネルギーをご覧いただきます。棟方志功と表立雲氏の展示室における再会をお楽しみください。

表立雲「参差Ⅱ」

第3・6展示室

春を待つこころ

2月15日（土）～3月21日（金・祝） 会期中無休

四季折々、詩情豊かな風情を見せる日本の風土は、また詩情豊かな芸術を生み出す風土であるといってもよいでしょう。そこに育まれた日本人の感性は、古来より文学・絵画等、四季に応じて優れた芸術をつくり出してきました。中でも厳しい冬を越えて心待ちに迎える季節「春」は日本人にとって格別な思いを抱かせ、作品を生み出す動機ともなってきました。第3・第6展示室では、近現代美術のうち、絵画・彫刻の各分野で主に「早春から春」をテーマにした作品を展示します。

日本画の作品を一点紹介します。上村松園の「女房観梅之図」は市女傘（いちめがさ）に被衣（かずき）姿の平安風装束をまとった女性が、梅の枝を一朶手にしている姿です。題名となっている「女房」は、ここでは宮廷に使える女性、若しくは女性一般を指します。夜半の風に折れた枝を見つけ、ふと梅の木を見上げたところでしょうか。または仕える主のもとに持ち帰る梅を探しているようにも見て取れます。いずれにしても、この季節を飾るに相応しい一点です。

その他の主な作品としては日本画分野から、石川義「春のあしおと」、瀧川眞人「春を待つ」、平桜和正「待春の浜」、曲子光男「春雪」、油絵分野から奥田憲三「待春の丘」、判三教「待春」、堀忠義「犀川春静」、小絲源太郎「春蘭」、松下久信「早春の福浦港」、彫刻分野からは、矩幸成「春を包む」、得能節朗「春」、山瀬晋吾「春の音1／2」などの展示を予定しています。

上村松園「女房観梅之図」

山瀬晋吾「春の音1」

第1～9展示室

あなたが選んだ 石川県立美術館

名作の森

12月21日(土)～2月11日(火・祝) 会期中無休

石川ゆかりの美術・工芸作品を収集してきた石川県立美術館。新しい試みとして、三千点を超える所蔵品の中から人気投票によって皆さんの声をお聞きし、「あなたが選んだ石川県立美術館 名作の森」として展覧会を構成しました。年末から始まった展覧会も終盤を迎えています。投票に参加いただいた皆さんが、結果を確認に来館される姿をあちこちで見かけます。

投票は延べ二百点を超える作品に寄せられました。展示スペースに限りがあるため、全部の作品を展示することができませんでしたが、投票いただいた作品は一点でも多く展示するため、前後期で作品を一部入れ替えました。重文「蒔絵和歌の浦図見台」は後期出品で、このあと会期末までご覧いただけます。それでもご期待に応えられない作品がありました。重文の「西湖図」は現在修復を進めていて展示できませんでした。木島桜谷の「咆哮」は泉屋博古館で開催中の「木島桜谷展」へ貸出中で不在となりました。このあと二月に予定している特別陳列「西出大三展」に出品するため、截金作品は選ばれたものとは別の作品になりました。

それでも石川県立美術館の精華は十分にご堪能いただけるのではないかと思います。まだ、ご覧でない方は、ぜひともご来場ください。

関連事業

◇ギャラリー・トーク
2月2日(日)・9日(日) 午前11時
会　場　石川県立美術館　企画展示室

◇伝統工芸の実演(詳細は7ページの二月の行事予定をご覧下さい)

重文 伝清水九兵衛「蒔絵和歌の浦図見台」

前田育徳会尊経閣文庫分館

新春優品選

12月21日(土)～2月11日(火・祝) 会期中無休

昨年末より開催している展覧会もあと数日となりましたが、展示作品を紹介いたします。

最初の王若水の「花鳥図」は、三幅対の中幅に松竹梅と番の丹頂鶴、左右幅にはそれぞれ春秋を表す牡丹に禽鳥・菊に禽鳥が確かな筆致と鮮やかな彩色で描かれています。花鳥画は不老長寿や夫婦和合、子孫繁栄などを示す吉祥図で、新年の大名家の書院飾りにふさわしい大幅です。作者は中国元時代の花鳥画を得意とした画家です。

次の「砂張銅鑼」は、後に銅鑼の重要無形文化財保持者となった魚住為楽が、皇紀二六〇〇年(昭和十五年)を記念して、前田家十六代前田利為侯へ納めた大作で、「会心の作也」と箱書きに記されています。また、文部省無形文化財保護委員会の依頼でこの銅鑼の写真と制作記録を提出することになるなど、この銅鑼が魚住の記念碑的な作品であったことがうかがえます。皆様個々の心の耳で、その音色を聴きながらご鑑賞ください。なお銅鑼掛の制作者は、氷見晃堂(木工芸で重要無形文化財保持者)です。

その他、梅花文が美しい「玳皮盞天目茶碗(梅花天目)」や、おおらかな趣をもつ「茶壺 銘春の日」、さらには白隠独特の温もりのある禅画で、観音経の「慈眼視衆生、福聚海無量」の賛をもつ観音菩薩の功徳をたたえた「観音羅漢像」などに、清新な初春のひと時を感じ取っていただければ幸いです。

魚住為楽「砂張銅鑼」

二月前半までの展覧会

今月の企画展示室（各種団体）

第9展示室

石川県立金沢辰巳丘高等学校
第26回 芸術コース美術専攻

卒業作品展

2月15日（土）～16日（日） 会期中無休

本校芸術コース美術専攻は『美術系大学への進学に対応した実技力の育成』を目標に、昭和六十一年に創立して以来、美術の基礎・基本の定着と高い造形表現力の育成を行ってまいりました。卒業生は金沢美術工芸大学をはじめ全国の美大・芸大・美術教育系学部へと進学し、絵画、彫刻、工芸、デザイン、映像、アニメーション、現代美術、そして教育界など、地元石川のみならず全国各地、さらには海外において美術文化や美術教育の担い手として活躍しております。

この展覧会は、今年度の卒業生十七名が本校での学習成果を発表するもので、日本画、油絵、彫刻、デザインの四専科から一人数点を展示発表します。この機会を通して美術専攻生徒と本校美術教育の一層の成長、発展への励みにしたいと考えております。

◇入場無料

◇連絡先／石川県立金沢辰巳丘高等学校　詠　周史
TEL ○七六―二二九―二五五二

第7・8展示室

平成25年度 金沢大学
学校教育学類 美術教育専修
大学院 教育学研究科 卒業・修了制作展

2月27日（木）～3月2日（日） 会期中無休

金沢大学 学校教育学類 美術教育専修 卒業制作展
金沢大学 大学院 教育学研究科 美術・図工分野 修了制作展

絵画、彫刻、デザイン、美術科教育の各分野の学士課程二名、修士課程三名による平成二十五年度卒業・修了作品約五十点を展示します。これらは、主に教職を目指す学生が、自らの学生生活の総決算として地道に努力を重ね、且つ創造的に研究し制作して完成させたものです。

未熟ではございますが是非ご高覧下さい。そして忌憚のないご批評、ご助言をお願いします。

◇入場無料

◇連絡先／金沢市角間町
金沢大学人間社会学域学校教育学類　江藤望
TEL ○七六―二六四―五五八二

第7～9展示室

金沢学院大学美術文化学部
第11回 卒業研究制作展

2月19日(水)～23日(日) 会期中無休

今年も、美術文化学部の三学科、美術工芸学科（日本画・洋画・陶芸・漆芸）、メディアデザイン学科の卒業制作、美術文化専攻科修了制作、そして文化財学科卒業研究の成果を発表いたします。小さな学部ですから出品作品数は多くはありませんが、一人ひとりの表現や解釈の多様性に、今日の若者の感性や関心の傾向を読み取ることは楽しいものです。どうかご高覧いただき、忌憚のないご批判ご感想をお伝え下さいますようお願い申し上げます。

◇入場無料

◇連絡先／金沢市末町一〇
金沢学院大学美術文化学部担当受付
TEL ○七六―二二九―八七七五

第8・9展示室

第20回記念 北陸国展

2月26日（水）～3月2日(日) 会期中無休

北陸国展は北陸在住及び、ゆかりのある国展出品者等で構成され、第二十回の節目を迎える記念展となります。その間、北陸国展での成果が国展での受賞者輩出につながっています。今回は絵画部二十三名、写真部二十三名が力作、大作を発表します。また、広坂別館にて写真部受賞者会員準会員秋季展（東京）の巡回展示も行ないますので合わせてご高覧くださいますようお願い申し上げます。

◇入場無料

◇連絡先／津幡町七野一〇七―一
本田正史（北陸国展事務局）
TEL ○七六―二八八―一八一九

◇後　援／北國新聞社、テレビ金沢

平成26年度

友の会 会員募集

3月1日(土)から受付開始！郵送でのお申し込みは郵便振替で。
現会員で継続を希望される方も、改めてお申し込みください。

1. 会　費　二、〇〇〇円
2. 受付期間　三月一日(土)より開始。
3. 入会手続　次のⒶⒷいずれかの方法。

Ⓐ 直接来館してのお申込み(同封の**入会申込書**を使用)

・会 員 証：その場で発行。
・場　所：一階 情報・図書コーナー及び事務室
・申込方法：会費(現金)と入会申込書に所定事項を記入して提出。
・受付時間：午前九時三十分～午後六時(休館日を除く)
※三月の休館日は、二十三日(日)～二十六日(水)です。

Ⓑ 郵便局からのお申込み(同封の**払込取扱票**を使用)

・会 員 証：三月末から美術館だよりと共に郵送。
・申込方法：同封の払込取扱票に所定事項を記入し、最寄りの郵便局(ゆうちょ銀行)窓口にて支払い。払込手数料(窓口一二〇円・ATM八〇円)は申込者負担。
・注意事項：郵便局で払込した方は、同封の申込書を郵送する必要はありません。払込取扱票の受領証は、会員証が送付されるまで大切に保管してください。
◇郵便局(ゆうちょ銀行)備え付けの振替用紙をご使用の場合、口座番号・加入者・通信欄に左の事項を記入して支払い。
・郵便振替口座：00700-7-46490
・加入者名：石川県立美術館友の会
・通信欄記入事項：年齢、性別、会員の区別(継続・新規・元)、職業、継続会員の方は現在の会員番号

4. その他

◇会員証の有効期限
平成二十六年四月一日～平成二十七年三月末日
◇会員証の対象：記名者本人のみ(ご家族の方との連名受付はありません)。
◇一度納入された会費の返金はできません。
◇会員証紛失による再発行はできません。

会員の特典

●コレクション展に無料で入場可(要会員証・会員本人のみ)
●企画展入場券進呈
(春季・秋季・冬季3回の企画展のいずれか2回に無料で入場可)
●企画展の開会式(開会式がない場合は初日)にご招待
●入館料の割引(要会員証)
①同伴者2名まで：コレクション展、企画展観覧料が割引
②会員本人のみ：石川県七尾美術館、石川県輪島漆芸美術館、石川県九谷焼美術館、石川県能登島ガラス美術館、金沢21世紀美術館の各館主催展覧会を割引。
(石川県立歴史博物館は休館中です)
●館主催諸行事への参加
●館内カフェ「ル ミュゼ ドゥ アッシュ KANAZAWA」にてドリンクの割引
(要会員証・土日、祝日を除く)
●最新情報をお伝えする『石川県立美術館だより(本誌)』を毎月郵送

二月の行事予定

■伝統工芸の実演&ミュージアムコンサート			
2日(日)	加賀友禅(彩色)、九谷焼(上絵)実演会	11時～16時	1Fロビー
	オーケストラ・アンサンブル金沢 弦楽四重奏"冬のきらめき"	16時～16時30分	美術館ホール 先着二〇〇名
■土曜講座	午後1時30分～ 美術館 講義室 聴講無料		
1日(土)	銅像と近代国家・美術	北澤 寛 学芸専門員	
8日(土)	石川の石彫	北澤 寛 学芸専門員	
15日(土)	世界遺産を訪ねて7	谷口 出 学芸第一課長	
22日(土)	美術にみる色・赤3	西田孝司 担当課長	
■ビデオ鑑賞会	午後1時30分～ 美術館 ホール 入場無料		
9日(日)	日本美術史2-1 飛鳥・白鳳・天平時代 仏教文化と仏像の美	28分	
	日本美術史2-2 飛鳥・白鳳・天平時代 寺院建築の変遷	27分	
16日(日)	日本美術史3-1 平安時代 密教美術の成立	24分	
	日本美術史3-2 平安時代 王朝文化の成熟	25分	
■キッズプログラム	午後1時30分～ 美術館 講義室集合 参加無料		
23日(日)	きれい！かわいい！西出大三さんのきらめく世界		
	ゲスト講師 山本茜氏(截金ガラス作家・日本工芸会正会員)		

截金彩色木彫合子「華鳥」 きりかねさいしきもくちょうごうす「けちょう」 所蔵品紹介240

西出　大三 にしで・だいぞう　昭和55年（1980）　第27回日本伝統工芸展

墨、緑青、赤褐色の彩色が繰り返され、その上から花を散らしたような金箔装飾―平安時代の仏教美術に用いられた技法、截金が施された、鳥の形の合子です。加賀張子を元にした愛らしい姿は檜を彫り出したもので、素地の成型から彩色、截金装飾まですべて、重要無形文化財「截金」保持者、西出大三氏の手による作品です。

西出氏の作品の魅力は、姿の美しさにあります。東京美術学校で木彫を学んだ確かな技術と、類い稀な造形力が生んだ形は、どの方向から見ても美しく、細部に渡って神経が行き届いています。そしてここに截金が幻想的な華やかさを添えるのです。

つぶらな黒い目と開いた嘴（くちばし）からのぞく鮮やかな赤、目の下のふくらみやピンと張った尾羽に、瑞々しい生命力があふれ、截金の細い線も、しなやかで強靱な鳥の体を表しています。対して首から尾までの、ふっくらとしたなだらかな面に施された花模様の、極楽浄土のような静謐さ。この相反する表現が幼鳥の無垢な姿に、この世ならざる荘厳な空気をまとわせています。

仏教思想に深く寄り添っていた西出氏にとって、鑿（のみ）の一彫りから箔一片にいたるまで、制作そのものが祈りに等しかったと言えるでしょう。生命の輝きと永久（とこしえ）の美を併せ持つ本作は、氏の代表作の一つです。

次回の展覧会

前田育徳会 尊經閣文庫分館	第2展示室
春の優品選	春の優品選

会期：3月27日（木）～4月15日（火）

1F企画展示室（7～9展示室）・2Fコレクション展示室（3～6展示室）

第70回 現代美術展　会期：3月29日（土）～4月15日（火）

ご利用案内

コレクション展観覧料
一　般　350円（280円）
大学生　280円（220円）
高校生以下　無料
※（　　）内は団体料金
毎月第１月曜日はコレクション展示室無料の日（2月は3日）

今月の開館時間
午前9：30～午後6：00

カフェ営業時間
午前10：00～午後7：00 年中無休

2月の休館日
12日（水）～14日（金）

広告
毎週水曜日は
Meiカード ポイントプラスデー
Meiカード通常ポイント ＋ 3% ポイントプラス
※催事場、地階食品売場などやご奉仕品は、通常通りのポイントとさせていただきます。詳しくは売場係員におたずねください。
MEITETSU MIZA めいてつ・エムザ
金沢 むさし TEL（076）260-1111（代）
www.meitetsumza.com
10時→19時30分（地階レストラン街・書籍は21時まで）

石川県立美術館だより
第364号（毎月発行）
2014年2月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町２番１号
Tel：076(231)7580
Fax：076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/